

No.2912

第二次世界大戦後の日中間における建築と都市計画に関わる思想的交流  
—西山卯三と梁思成の動向に注目して—

明治大学理工学部建築学科  
助教  
市川紘司

本調査研究は、戦後日本と中華人民共和国の建築・都市計画領域における国際学術交流の一端を明らかにすることを目的に、とくに日本の西山卯三、中国の梁思成という二人の建築学者の動向に焦点を当て、その動向の解明を試みるものである。

西山卯三については「NPO 法人西山卯三記念すまい・まちづくり文庫」での資料調査等をつじて、1960年に実現された西山の中国視察旅行の経緯、内容、その後について調査した。この調査によって、西山が1960年に約一ヶ月をかけて中国の諸都市を巡って各地の建築関係者と交流したこと、とくに北京では中国建築学会副理事である梁思成や中国建築工程部部长の劉秀峰らと交流し、天安門広場での国慶節セレモニーに参加したことが分かった。また、人々が自由に踊るセレモニー時の天安門広場の様子が、1970年の大阪万博の「お祭り広場」の原イメージのひとつとなっていることが分かった。

視察旅行帰国後の西山は、その成果報告を積極的におこないつつ、日中両国建築界の継続的な交流のために「日中建築交流センター」を創設し、会報や中国図書所蔵の活動などを展開した。また、1964年に北京で開催された中国科学技術協会主催の学術シンポジウムにはセンターのメンバーを派遣した。これらの日中建築交流センターの試みは、1970年代以降に本格化する日中建築交流の端緒となるものとして歴史的な意義をもつものだと考えられる。

梁思成については、清華大学建築学院資料室での資料調査を実行したが、残念ながらその交流の痕跡をトレースできるような資料は見つからず、めぼしい成果は挙げられなかった。また計画していた梁思成の御遺族への聞き取り調査についても実現できなかった。1960年の西山訪中に始まる、1960年代における戦後日中建築交流の中国側の取り組みについては、今後改めて調査する必要がある。